八幡事業所 Tel.Fax 672-7595
sawayaka@eagle.ocn.ne.jp
小倉事業所 Tel.Fax 647-3210
sawayakakokura@violin.ocn.ne.jp
HP:http://www.npo-sawayaka.net/

さわやか

2020年9月28日
第２８４号

発行者
特定非営利活動法人
通院介護センター
さわやか

第17回 特定非営利活動法人 通院介護センター「さわやか」定期総会開催

九月十三日（日）午前九時三十分から、福岡県立北九州市勤労青少年文化センター（通称・北九州パレス）（小倉北区）の二階第二会議室で第十七回特定非営利活動法人通院介護センター「さわやか」の定期総会を開催しました。

『密』にならないように 気を付けての開催

今年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、マスクの着用と『密』にならないようにし、手指の消毒や部屋の換気を徹底するなど、特に気をつけて行いました。

出席者が全員揃ったので、定刻より十五分早く始めました。

初めに、司会の岡副理事長が開会宣言を行い、資格審査委員に貞谷事務局員が選任されました。

次に、山田理事長が挨拶をし、審議に入りました。

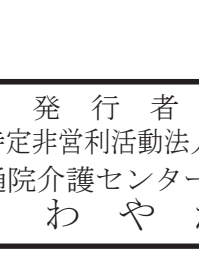
貞谷資格審査委員より午前九時現在、総正会員数二十七名、出席二十五名、（表決委任者含む）欠席者二名で定款条項に基づき総会は成立する旨、報告がありました。

続いて、議長に山田理事が選任され、議事録署名人に梶原常務理事と高原事務局長が選任されました。

その後、議案の審議に入りました。

第一号議案の平成三十一年・令和元年度活動報告、第二号議案の平成三十一年・令和元年度収支決算報告、第三号議案の平成三十一年・令和元年度会計監査報告、第四号議案の令和二年度活動方針（案）、第五号議案の令和二年度事業計画及び収支予算（案）が提案され議案は全て満場一致をもって承認されました。

第六号議案は今年は二年に一度の役員改選の年であり、議案書に基づいて満場一致をもって承認されました。



その後、互選にて理事長一名・副理事長二名が選出されました。（左上の図参照）

全ての審議が終了し、山田議長の解任の挨拶があり、岡副理事長が閉会を告げ、午前十時十分に閉会しました。

次に、山田理事長より九月十三日（日）に行われる第十七回「さわやか」定期総会での役割分担と今年は役員改選の年であり、全員重任することについて提案があり、承認されました。

その他の議案として議長より、「今年は新型コロナウイルスの感染症による会議や研修会などイベントがことごとく中止に追い込まれ、「さわやか」でも秋のバスハイクができない事態になっています。

そこで、秋に研修会を開催できないか」と提案がありました。

高原事務局長より、「ソーシャルディスタンスの観点から少し大きな会場を借りることが出来、交流会は次回に延期するということであれば、研修会のみの開催はできると思われます」と助言があり、満場一致で承認されました。

開催時期や詳細については事務局に一任されました。

以上で、理事会の議案すべての審議が終了し、午前十時に閉会しました。

令和2年度 第1回理事会開催

八月三十日（日）午前九時より北九州市小倉北区井堀の福岡県立北九州勤労青少年文化センター（通称・北九州パレス）において特定非営利活動法人通院介護センター「さわやか」令和二年度第一回理事会を開催しました。

新役員紹介

理事長 山田浩美（かわい泌尿器科クリニック）

常務理事（兼）副理事長 梶原待子（かわい泌尿器科クリニック）

副理事長 岡 俊一（かわい泌尿器科クリニック）

理事 若原清彦（折尾クリニック）

理事 加峯東樹（ひがしだクリニック）

理事 高原由美（今村クリニック）

監事 小田睦美（難病連）

平成31年・令和元年度「さわやか」活動報告

項　目	合算	八幡	小倉
登録ボランティア数	33名	10名	23名
登録車両数	29台	9台	20台
（うち軽自動車数）	（13台）	（3台）	（10台）
登録利用者数	37名	24名	13名
送迎回数	2766回	1128回	1638回

（八幡・小倉事業所合算　令和2年3月31日現在）

2020年9月28日　さわやか　第284号

ボランティアさんと利用者さんから投稿いただきました！

世界中を恐怖に巻き込んでいる新型コロナウイルス感染症は、北九州市でも日々感染者が増加しています。感染防止のため、自粛生活を余儀なくされて思いどおりにならないもどかしさなどを感じながら過ごされていると思います。今回、ボランティアさんと利用者の方にコロナ禍の中での送迎の様子や自粛生活でのちょっとしたアイデアなどを教えていただきましたので、ご紹介します。

元気かどうか、心配してあげる

小倉事業所　ボランティア
松本　勲さん

北九州市で新型コロナウイルス感染症は日ごとにその数が増加しています。

送迎前の利用者様のふれる車の内外のアルコール消毒はこまめに行っています。

どんなに注意してもウイルスに感染する事もあり、だれかが感染したらその人が元気かどうか、心配してあげること、送迎がんばります。

この難局を乗り切って行きたい

小倉事業所　ボランティア
芳井　紀代美さん

皆様、新型コロナウイルスのため、自粛生活を余儀なくされていることと思います。でも、私は、普通に生活している方だと思います。

マスク・手洗い・うがいは欠かせなくなっていますが、そこまで苦痛には思ってはいません。（ちょっと肌荒れは気になりますが…）

コロナウイルス感染者の方々にも、無症状の方が多くおられます。

看護師という職業上、常に心掛けている事は、「自分もウイルスを保持しているかもしれない」、「自分が、感染源になってはいけない」ということです。

『ソーシャルディスタンス、マスク、手洗い、うがいと、さわやかさんからいただいたアルコールでの手指消毒』、近くに人がいなければ、マスクは外しても構わないと思います。

これで、この難局を乗り切って行きたいと思います。

コロナ禍の中で

八幡事業所　ボランティア
安部　昌子さん

ウイズコロナ、この一言に尽きるでしょう。

それに於いて私個人が唯一気を付けるのは、『密』です。子供や孫達とも半年近く逢っていません。電話のみです。

避けようのない見えないコロナの為に多くの人達の最低限の予防です。コロナの為に多くの人達の現在、未来の生活設計が音をたてて崩れた事でしょう。感染拡大予防対策指針の策定とか英単語を使っての社会の風潮、理解しにくいですね。日本語で噛み砕いた説明が欲しいものです。将来の日本経済も想像するだけで恐ろしいものを感じます。どんなに全てに於いて気を配っていても無駄なのかもしれません。

最後に政治家の方、誰一人感染しないのでが不思議です。私だけでしょうか。そう考えるのは・・・。

そんな私ですが週３回のボランティアの送迎は、車内の消毒をしつつ、頑張っております。

送迎をして戴ける事は本当に有難い事

小倉事業所　利用者
黒川　朝路さん

ジワジワと隙あらばと云った感じの『新型コロナウイルス』ですが、私達にできる事と言えば、先ずは人との接触を出来る限り避ける事から始まる様に思います。

でもそれでは社会生活が成り立ちません。子供達や若者、医療従事者等、本当に大変だと思います。　私達透析患者にとりましても、『新型コロナウイルス』はリスクが高く、脅威を感じます。一人暮らしの私にとりまして、送迎を支えて戴ける事は本当に有り難い事です。頼りに致しております。